

たいにいい・ぼっくすつうしん

Vol.119

令和7年
2月14日

ノックしなければ、扉は開かない。

先日、帰りの送迎時に、開所当初からご利用いただいている保護者様から「通信の3と4をいただけますか？」というお話がありました。なんでも、その方はすべての通信をファイリングして保管してくださっており、バックナンバーの3と4だけが抜けているとのことでした。非常にありがたいお話です。

この機会に普段は読み返さない通信を振り返ることができました。今回の通信はVol.119となりますが、初期の号と比較すると、通信のスタイルに変化が見られます。初期の通信では、活動内容の詳細な説明や、写真の枠にこだわるなどの効果を意識した作り、外部の福祉情報の掲載、新規スタッフの挨拶を挿入するなどが行われていました。それは徐々に変化し、記事の囲み枠が固定されるようになり、UDフォントが選ばれるようになりました。そして、最も顕著な変化は文字数が増えたことです。仕事を続け、積み重ねた経験をもとに、違和感を覚えることがあれば、それを文にまとめ、問題提起や警鐘を鳴らす内容を記すようになりました。問題提起の場は通信内に収まらず、先日の相模原市南区の放課後等デイサービスの集まり（南区地域障がい福祉連絡協議会）で、神奈川県知事および神奈川県教育委員会教育長に対し、支援学校の課題とその改善を求める内容を提出することを提案しました。結果、実際に要望書として送付する運びとなりました。要望の内容は次の2点です。

- ① 支援学校に通う高校生がスクールバスを無条件で利用できるよう求めます。特に、相模原支援学校については、木曜日の下校スクールバスの再開を求めます。
- ② 自主通学を推進するため、保護者の送迎を前提にする前に、優先的に授業カリキュラム（個別指導計画）を立てることを求めます。

まだ神奈川県からの返答はなく、これからどのような反応が返ってくるかはわかりません。無回答の可能性もあります。それでも構いません。ノックしない限り、扉は向こうから自然に開くことはないのですから。どこかで、誰かが声を上げることで、福祉は常に変化してきました。この仕事を選び、携わっている以上、ノックをし、ノックし続ける行動を起こすべきだと感じています。

たいにいい
のようす

写真掲載欄のため、内容を削除しております。

茶話会について(報告)

1月24日（金）に茶話会を実施しました。ショートステイの利用に関する資料をまとめ、ご説明の場を設けました。18歳未満と18歳以上で利用に制限があり、就学後に継続的な支援が受けられないことや、肢体不自由児のショートステイ先が近隣施設に限られることが課題となり、利用に対して積極的になれないのが実際の問題でした。また、放課後等デイサービスの宿泊体験については、営業時間外であり、市の指定範囲を超えた活動は行わないよう、障害福祉基盤課から指摘がありました。次回の茶話会は、3月10日（月曜日）の10時より開催予定です。内容としては、他法人の生活介護の活動内容や、要望書全文の公開、来年度のバス旅行に関するご意見をお聞かせいただければと思っています。ご都合がよろしければ、ぜひご参加ください。

3月の予定

雛祭り(制作活動)

他、春季長期休暇期間計画書参照

3月 休業日

1日2日
8日9日
15日16日
20日
22日23日
29日30日

